2018 年 9 月 5 日
株式会社システム情報
https://www.sysj.co.jp/

アジャイル開発の成功と定着を
総合的にサポートする新サービスを開始

米国のアジャイル研究開発機関とパートナー契約を締結

株式会社システム情報は、米国のアジャイル研究開発機関である AgileCxO.org, Inc.（以下 AgileCxO）(*1)とパートナー契約を締結し、アジャイル開発の成功と定着を総合的にサポートする新サービスの提供を開始いたします。
当パートナー契約締結は日本では初めてとなります。

- 株式会社システム情報　　本社：東京都中央区、代表取締役社長：鈴木隆司、JASDAQ:3677
- AgileCxO.org, Inc.　　本社：米国 フロリダ州マラソン CEO：Jeffrey R. Dalton

デジタル化が進み、あらゆることの変化の速度が増大した現在、俊敏性があり変化に対応できる“アジャイル”手法(*2)でのシステム開発への需要が高まっています。
しかし、アジャイル開発の代表的な手法であるスクラム(*3)や XP(*4)などに基づくプロセスをただ実践するだけでは、アジャイルが成功し定着することは稀です。当サービスで提供するような広い視野で施策を打つ必要があります。

AgileCxO が開発した「APH」(*5)は、200 を超えるアジャイルプロジェクトの分析結果をもとに作られた、アジャイル開発に特化したベストプラクティスモデルです。
このモデルには、スクラムや XP などの手法を使ったプロジェクトの進め方のプラクティスと、“ビジネス価値の創出”“リソース・環境の提供”など、リーダーが取るべき具体的な行動に関する記載が含まれます。
（株）システム情報は、この APH を活用したコンサルティング、トレーニング、及び現状と課題を把握するためのアセスメントからなる新サービスを提供いたします。
さらに、（株）システム情報には、アジャイルに限定しない汎用的なプロセス改善ツールである CMMI(*6)を活用したコンサルティングサービスや、CMMI アプレイザルサービスの実績がございます。今後はお客様のニーズに応じて APH と CMMI を最適に組み合わせたサービス(*7)を提供することで、アジャイル開発の成功と定着化を支援いたします。

（株）システム情報は、APH を活用したサービスを提供する能力を有する“AgileCxO トランスフォーメーションパートナー”に日本で初めて認定されました。

- AgileCxO の発表内容についてはこちらをご覧ください。(英文)

(*1)AgileCxO

AgileCxO は、著名な CMMI リードアプレイザーおよびインストラクターであり、アジャイルの伝道者でもある Jeffrey R. Dalton 氏が中心となり、2016 年に設立されました。

- AgileCxO.org, Inc についての詳細はこちらをご覧ください。（英文）

(*2)アジャイル開発

優先順位の高い機能から動くものを作り始めて短い時間で一部を完成させ、それを顧客やユーザーに早く見てもらい、フィードバックを受けながらソフトウェアを成長させる一群の手法です。アジャイルとは「機敏、俊敏」を意味します。

- 参考文献　「アジャイル開発とスクラム　平鍋健児、野中郁次郎 著」 p4

(*3)スクラム(SCRUM)

最も普及が進んでいるアジャイル開発の手法の一つです。常に進む方向を調整しながら目的を達成できるプロダクトをつくるために、ラグビーのように“スクラム”を組んで全員が一丸となって行うべき作業、会議、成果物を定めたものです。1990 年代にジェフ・サザーランド氏とケン・シュエイバー氏が中心となってまとめられました。

- 参考文献　「スクラム・ブート・キャンプ　ザ・ブック　西村直人、永瀬美穂、吉村龍太郎 著」p22

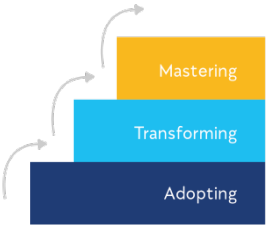
(*4)XP (エクストリームプログラミング)

日本に最初に紹介されたアジャイル開発の手法の一つです。15 人くらいまでの少人数の技術者たちがコミュニケーションを密にして、優先度の高い要求順に、分析、設計、コーディング、テストのすべてを短期間で行い、生産性を飛躍的に高める手法です。ケント・ベック氏らが 1999 年に、独ダイムラークライスラーにおける開発プロジェクトでの経験をもとに「12 のプラクティス」という形でまとめました。そこにはリファクタリングやテスティングに関わる技術的なプラクティスが多数含まれており、多くのプロジェクトで、スクラムを採用しながら XP も参考にしています。

- 参考文献　「アジャイル開発とスクラム　平鍋健児、野中郁次郎 著」 p107, p111
- 参考文献　「大塚商会 IT 用語辞典“エクストリームプログラミング”」こちらを参照

(*5)アジャイル・パフォーマンス・ホラキー（APH)

APH は、AgileCxO が実施した 200 を超えるプロジェクトの分析結果を元に、アジャイル開発のリーダーや組織がアジャイルを適切に展開、維持、評価できるように設計されたベストプラクティスを集約したモデルです。“価値”、“行動と振る舞い”、“技術と作法”、“役割と責任”をまとめたもので、スクラムや XP などのアジャイルのフレームワークを代替するものではなく、これらを含めてプロジェクトを成功に導くハウツーを包括的に提供します。



アジャイル能力の段階

また AgileCxO は、“アジャイル能力”を以下の 3 段階のレベルで定義し、レベルの評価手法“APH Assessment Method(APHAM)”を提供します。

- **Adopting（導入している）**　：初期段階の俊敏さ（アジリティ）を実現
- **Transforming（変革している）**：変革が進行中
- **Mastering（極めている）**　：高いパフォーマンスの組織的アジャイルを実現

お客様は企業全体あるいは変革が必要な組織で APH と APHAM を活用することで、ベンチマーキングを通して現在の状況や課題を把握し、アジャイルに対応できる組織への変革へ向けた明確なロードマップを作成できます。

- APH についての詳細はこちらをご覧ください。（英文）

【ホラキーとは】

ホラキーとは、「ホロン」から発生した言葉です。ホロンはもともと、「部分でありながら全体としての機能・性質をもち、全体と調和して機能する単位」を意味します。例えば、人体という全体を構成する要素である細胞も、細胞が集まって構成される臓器も、いずれもホロンです。APH の構成要素も、このような意図でホロンと称されています。

また、ホロンはネスト構造の階層を持ちますが、このホロン(Holon)の階層(ヒエラルキー Hierarchy）のことをホラキー（Holarchy）と呼びます。

（日本語では”ホラーキー”と呼ぶ場合もあるようですが、英語の発音により近い”ホラキー”という呼び方を選択しました。）

(*6)CMMI（Capability Maturity Model Integration ）

米国カーネギーメロン大学のソフトウェア工学研究所（SEI）が開発したプロセスの能力成熟度モデル。組織のプロセス能力(成熟度)を 5 段階で評価し継続的な改善を促す、体系的なプロセス改善のためのモデルです。

（株）システム情報は、最高の成熟度レベルであるレベル 5 を達成しております。

- CMMI に関する公式情報は CMMI Institute ホームページ（こちら）を参照。（英文）

(*7) APH と CMMI の組み合わせ想定

お客様のニーズ	APH と CMMI の組み合わせ
● アジャイル開発を成功させ定着させたい ● アジャイルのコンセプトを生かした機動力のある組織に移行したい	APH をフル活用し、CMMI からは必要要素を選択して活用する
● 組織能力を全般的に向上させたい ● 既に CMMI を活用中だが、アジャイル開発にも対応できる組織に変革したい	CMMI をフル活用し全般的な組織能力を向上させつつ、APH から必要要素を選択して活用する

- サービスについての詳細は（株）システム情報の CMMI コンサルティングページをご覧ください。

（2018 年 9 月 25 日よりご覧いただけます）

以　上

＜ お問合せ先＞
株式会社システム情報
CMMI コンサルティング室
電話番号：03-5547-5701
E-mail: hinkan@sysj.co.jp